

ゲーテ「ファウスト」のメッセージを読み解く

「信州自遊塾」名誉塾長 中野和朗

ほとんどの日本人が名前は知っているが、読んだことがないというのが、ゲーテの「ファウスト」です。それは日本人にこれを紹介した学究の権威たちの責任です。自分たちにもよく分からないので無暗に深遠にして難解な解釈に努めた結果、普通の日本人には理解困難な事態をまねいているのです。素直に娯楽を享受する庶民感覚で受け止めるとこれほど面白く楽しませてくれるエンターテインメントはありません。

ゲーテは「ファウスト」に現代へのメッセージを込めています。それは有名な最後の一行「永遠に女性的なものが我々を天国へ引き上げて行く」です。分かりにくい文ですが、反意語で書き換えた「儂い男性的なものがお前たちを地獄へ突き落す」と比べてみると意味がよく分かります。

「ヒューマン」という NHK スペシャルの番組をみました。「人間とは何か？」がテーマです。20 万年前出現したホモサピエンスが生き延びることができたのは、「助け合う」と「分かち合う」ことができるという特性をもっていたからだそうです。乏しい食料は等しく分かち合わなければみんなが生きることができなかつたし、力を合わせて助け合わなければ命を脅かすものに対抗できなかつたに違いありません。ところが、いま私たちの社会は、「競い合う」と「所有（占有）する」ことが当たり前のことになっています。これは原初の人間の本性とは違っています。物資に余裕ができると「物を私有する」と同時に「所有を競う」ことを覚えました。この時点から、人間は、本来の人間の本性を失わずに持ち続けた“真正人間”と、本性とは異質な「私有し・競う」性質を獲得した“疑似人間”（人間モドキ）の二種類の人間に分かれ、同じ社会で共存するようになりました。後者が社会を支配するようになり、“真正人間”は少数派となり“人間モドキ”に支配虐待され続けることになりました。有史以来の人間の歴史（“男社会”の歴史）は“人間モドキ”の闘争の歴史です。しかし、幸いなことに今なお“真正人間”の系譜は命脈をたもっています。ファウストは典型的な“おとこ”です。悪魔（メフィスト）と結託し、争い、支配し、奪い、所有し尽くします。“おとこ”の最高の甲斐性を誇示する「ユートピアづくり」の大事業の“建設の槌音”を聞きながら瞬間に向かって「とまれ！おまえはいかにも美しい！」と言い、充足感に満たされて死にます。しかし、その“建設の槌音”はじつは、悪魔の手下たちのファウストの墓穴を掘る音だったのです。ゲーテは「所有し、争う」ことを旨とする“おとこ社会”が突き進む理想の国は所詮は自分の墓穴を掘ることと同じだと言っているのです。そして、その絶望的な錯覚による破滅を救い得るのは、女性の本性である命を産み育む根本の力「慈愛」（所有しない愛）である、と言っているのです。“おとこ社会”から“おんな社会”への転換が人類を救済する。これが最後の一行に籠められたゲーテのメッセージなのです。